

今戸焼 干支人形

待乳山辰



台東区今戸から山谷堀公園を越えた先には、万葉集や古来の様々な歌に詠まれ、浮世絵に描かれたりと、四季を通じて風光明媚な小高い山「待乳山（まつちやま）」があります。

昔むかしの推古三年（五九五年）九月二十日、地面の中から湧き出た大きな山がそのはじまりで、その時に金色の龍が天から降りてきて山を廻り守護しました。それから六年後の夏にこの地域が大旱魃（だいかんぱつ）に見舞われた際、沢山の人の苦しみを救おうと十一面観音が歓喜天（かんぎてん）となって姿を現し、その神通力で人々を救って下さったと伝えられているお話が「台東区むかしむかし お話しと遊びⅡ」の「待乳山と聖天さま」に記されています。

また、浅草今戸に住んでいた馬子（まご）馬を使って荷物や人を運ぶ人の与八が待乳山の土と隅田川の水で作ったかつぱの焼き物が縁起物となり、今戸焼と名付けられて台東区の名物として伝えられているお話「今戸のかつぱ」も同書で読むことが出来ます。

このたび、永きにわたり親しまれる待乳山の縁起にあやかり、宝袋を龍の背に乗せることができる新作の干支人形「待乳山辰（まつちやまたつ）」を作りました。皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今戸焼 白井

六代 白井 裕一郎